

抗議文

アメリカ合衆国大統領

バラク・フセイン・オバマ・ジュニア 閣下

貴国は、昨年12月と今年2月の2回、ネバダ州の研究施設で臨界前核実験を実施した事実が中国新聞の取材で明らかになった。貴国が昨年11月と今年3月に実施した臨界前核実験に対し本市として今年5月に抗議したところである。米国大使館から核実験についての説明文が送付されたが、貴国保有の核兵器および臨界前核実験の安全性と有効性ばかりを主張するものであり、オバマ大統領が唱える核兵器廃絶への取り組みについては全く示されておらず、オバマ大統領の真意が全く理解できない説明内容である。

臨界前核実験は核爆発を伴わないとはいえ、度重なる核実験は本市をはじめとする核兵器廃絶を願う国際世論、また核実験中止を求める多くの声を無視し、核軍縮を希求する国際社会はもとより貴殿が掲げる「核兵器なき世界」に逆行する行為であり、誠に遺憾である。

また、一連の臨界前核実験は、貴国が核兵器保有への固執を表したものとも受け取れる行為である。今年3月の福島第一原発の事故を機に世界各地で「核」の脅威が叫ばれている中、この度の報道に対して心底から強い憤りを覚えるとともに、三次市民を代表して貴国の度重なる核実験に厳重に抗議し、今後において全て

の核実験の中止を強く求める。

貴国が、広島で被爆され現在もお苦しんでおられる多く人々の心を深く理解し、世界のリーダーである貴国が「核兵器なき世界」の実現に向け一刻も早く全力で取り組むよう重ねて強く要請する。

平成23年（2011）7月20日

日本国広島県三次市長 増田 和俊